



## イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

### 第 701 回 『全機現経営』とは……

2016.10.2

我家の菩提寺は臨済宗・南禅寺派だが、同じ禅宗に曹洞宗がある。  
その開祖である道元禅師の言葉に、「**全機現**(ぜんきげん)」という言葉がある。  
どうも仏話とはつきにくいし…と敬遠しがちだが、調べるにつれ、実に奥深い。

道元の言う「人生の意義」とは、

単的には…生き生きと生きよ。それこそ生きがいのある人生なのだ。そこで「生き生きと生きる」とは  
どういうことか。道元は、それは「**全機現**」であると言う。

それは「**自己の持つ機能をすべて発揮することである**」、全力投球ということである。

食事、遊び、睡眠、一服の煙草、一杯のお茶、の時でも「全機現」するのだという。

ゆったりと、しみじみと「全機現」するのだという。

そこに満ち足りた、しかも豊かな人生がある。生き生きと躍動する人生がある。

全力を尽くしたことによる満足感がある。

人々は現実には、常に「全機現」していないと言われている。

「全機現」とは、「**全部の細胞・機能・技術・能力を現す・発揮する**」という意味だが、通常、我々は自分の能力の**15%程度**しか使っていないらしい。

人は皆それぞれ、能力を持っているから、いかに「全機現」させるかがポイントとなりそうだ。

「全機現」できない、いや、しない理由は、**自分自身のこだわりのよう**だ。

こだわりを捨てることにより、すべての能力が発揮される。

この「全機現」の考え方は、人生の生き方に限らず、企業経営においても全くその通りの指南書となる。  
企業のビジネスリーダーがマネジメントすべきことの中で、最も重要なことのひとつが、「**自分自身をマネジメントすること**」だと言われている。

自分をマネジメントできないリーダーに 部下や組織のマネジメントができるはずがない。

経営者自身の目標管理とそのチェック、自身の体調管理等々、禅の考え方から学ぶマネジメントとは、  
まず経営者自らのセルフマネジメントをしっかり行い、いつでも、自分の力を最大限発揮できるように準備することであろう。これはまさしく、「全機現」の状態と言える。

そして経営全体の「全機現」、例えば、「組織」においても、やみくもに人員を増やすのではなく、現在  
いる人に、もう少しだけ能力を発揮してもらうことにより、素晴らしい成果が出せるかもしれない。

とすれば『**全機現経営**』とは、「**今いる社員をフルに活かす経営**」と言い替えることができる。

「社員」＝「人」だけではない。「物」・「金」・「時間」・「情報」等、我々の周りにある全ての経営資源を  
『全機現』させていくことにより、新たな活路も開けていくはずである。

いつでも全力で「コト」に当たる姿勢、今、経営者に強く求められている。

アップル社の共同設立者の一人である**スティーブ・ジョブズ**氏が、永年「禅」に取り組んでいたことは有名な話だが、実はこの『**全機現経営**』の提唱者でもあったこと、あまり知られていない。